

保護者会の資料や、  
学校だよりにご活用ください!

# 保護者に伝えたいデータ集

これまで「VIEW21」に掲載した膨大な調査・研究データの中から、人気のデータをピックアップしました。  
保護者会や学校だよりなど、保護者の方々への情報発信に是非ご活用ください。



<http://benesse.jp/berd/> をご覧ください

ベネッセ 研究

検索

ここにあるデータは「Benesse教育研究開発センター」のウェブサイト「VIEW21」(小学版)9月号のページからもダウンロードできます。

## PICK UP DATA

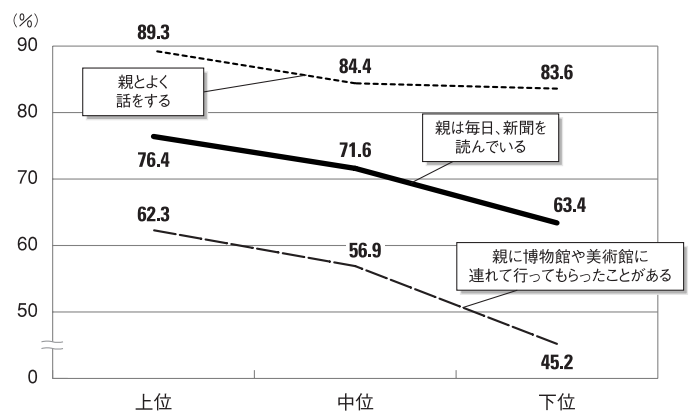
### 保護者の接し方が 子どもの成績にも影響!?

図は、保護者の行動と小学5年生の成績の関連を見たものです。成績上位の子どもの親ほど「よく会話をする」「毎日新聞を読む」「博物館や美術館に連れて行く」といった行動をとっていることがわかります。

宿題を見てあげるなど、子どもへの学習支援は大切です。ただ、それだけでなく、子どもと一緒にいる何気ない時間の過ごし方も、子どもの成績と深く関係しているようです。まずは、夏休みの体験について親子で振り返るなど、会話を充実させる工夫から始めてみてはいかがでしょうか。

## ◎親の行動と成績の相関(小学5年生)

\*各質問に「はい」と答えた割合



(Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査」調査期間:2006年6~7月

<http://benesse.jp/berd/data/>)

※VIEW21(小学版)2007年1月号 p.26「データから見る教育」掲載

## PICK UP DATA

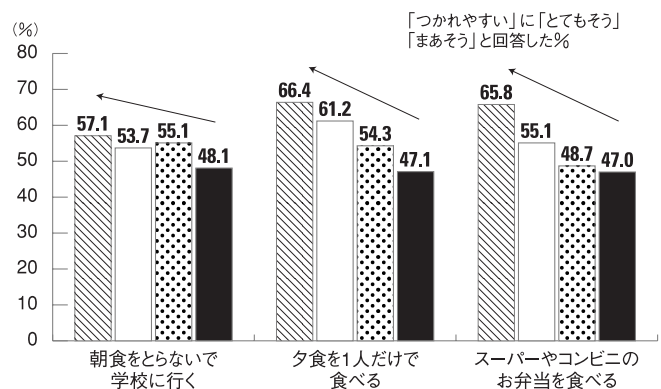
### 夏休み明けに見直したい 食生活と体調の関係

食生活は、子どもの体調に直接影響を与えています。朝食を抜くことや孤食、コンビニ食は「つかれやすい」「やる気が出ない」といった不調につながりやすいようです。例えば、「スーパーやコンビニのお弁当を食べる」ことがよくある子どもの65.8%が「つかれやすい」と回答しています。

特に夏休み明けは、生活リズムの乱れや疲れから、子どもが体調を崩しやすい時期です。両親共に忙しい家庭も多いと思いますが、便利なものを上手に利用しながらも、食生活には十分注意しておく必要があるでしょう。

## ◎食事と体調の関係(小学4~6年生)

■ よくある □ ときどきある ▨ あまりない ■ ぜんぜんない



(Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」調査時期:2004年11月~12月

<http://benesse.jp/berd/data/>)

※VIEW21(小学版)2006年4月号 p.23「データから見る教育」掲載

PICK UP DATA

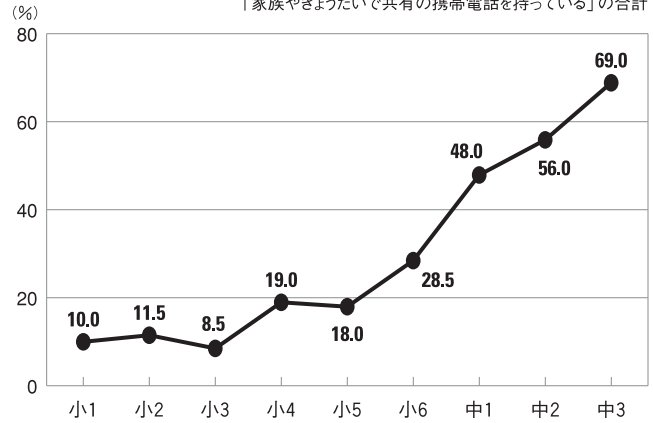
## 高学年から話し合いたい 携帯電話の使い方ルール

図は、小学校1年生～中学校3年生の携帯電話の所持率です。小3までは1割前後ですが、小6で3割近くになり、中学に入ると急速に上昇しています。

携帯電話には、「親子で連絡をとるのに便利」「危険から身を守るのに役立つ」といったメリットがある一方、「有害情報に接する」「犯罪に巻き込まれる」などのリスクも心配です。子どもが携帯電話を持つようになったら、使用時のマナー、使いすぎや依存、有害情報に接するリスクなど、使い方のルールを、ご家庭で話し合うことが大切です。

### ◎子どもの携帯電話所持率

\*「自分専用の携帯電話を持っている」と「家族やきょうだいで共有の携帯電話を持っている」の合計



(Benesse教育研究開発センター「ICTメディアに係る子どもの利用実態及び利用環境等に関する国内外調査研究」 調査時期:2006年3月 <http://benesse.jp/berd/data/>)  
※VIEW21(中学版)2007年9月号 p.33 「ベネッセの研究開発」掲載

PICK UP DATA

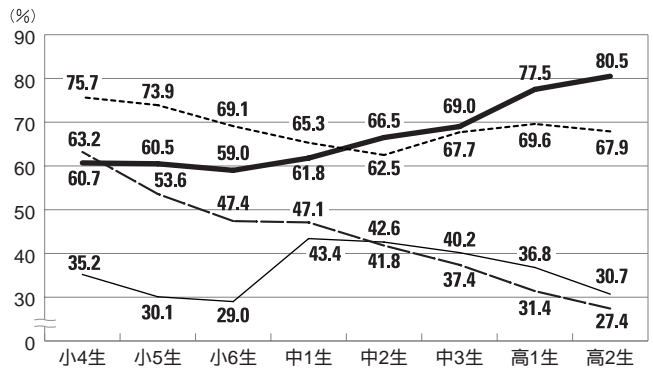
## 4年生くらいまでは たくさん「褒める」!

小学4年生から高校2年生の子どもに「勉強する理由」を尋ねました。注目したいのは「成績が良いと親が褒めてくれるから」の項目です。小学4年生では63.2%もあったスコアが、高2では27.4%にまで低下します。子どもたちは成長するにつれ、「褒める」「叱る」だけでは勉強するモチベーションが沸かなくなるようです。

一方、中学生になって伸びるのが「自分が就きたい仕事に就くのに必要だから」の項目です。小学校中学年くらいまでは、たくさん「褒める」ことが子どものやる気につながりますが、高学年になったら少しずつ進学先や将来について話し合ったりするとよいでしょう。

### ◎勉強する理由(学校段階別)

--- 成績が良いと親が褒めてくれるから      --- 成績が悪いと親に叱られるから  
- - - 問題が解けると嬉しいから              — 自分が就きたい職業に就くのに必要だから



(Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」 調査時期:2004年11月～12月 <http://benesse.jp/berd/data/>)  
※VIEW21(中学版)2007年4月号 p.25 「データから見る教育」掲載

PICK UP DATA

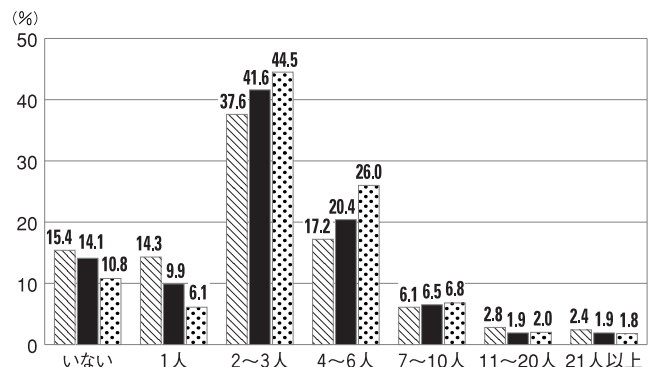
## 小学生の約15%が 悩みを相談できる友だちがいない

小学生に「悩みごとを相談できる友だち」の数を尋ねたところ、「2～3人」が最も多い37.6%、続いて「4～6人」の17.2%、「いない」は3番目に多い15.4%でした。一方、同じアンケートで「日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち」の数を聞いた場合、「いない」(1.3%)「1人」(2.9%)と回答したのはわずかでした。

遊ぶ友だちはいても、悩みを相談できる友だちがいない子どもは少なくないようです。子どものいじめは、大人目から見えにくくなっているという事実もあります。子どもが孤立しないよう、「困ったときには、味方になる大人が一人でもいる」というサインを送っておくことが大切です。

### ◎悩みごとを相談できる友だちは何人くらいいますか(校種別)

▨ 小学生 (4～6年生)      ■ 中学生 (1～3年生)      ▨ 高校生 (1～2年生)



(Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」 調査時期:2004年11月～12月 <http://benesse.jp/berd/data/>)  
※VIEW21(小学版)2007年7月号 p.21 「データから見る教育」掲載